

科目ナンバリング		U-LAS30 10033 SJ11							
授業科目名 <英訳>	情報AI基礎演習 [工学部] (建築学科) Practice in Basics of Informatics and AI (Faculty of Engineering) [Architecture]				担当者所属 職名・氏名	工学研究科 助教 佐藤 裕一 工学研究科 助教 孫 安陽			
群	情報学科目群			分野(分類)	(基礎)			使用言語	日本語
旧群	B群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	演習 (対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2026・前期		曜時限	月1		配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
本演習では情報セキュリティ, 学術情報の検索, 資料の入手, 情報の利用, 表計算ソフトによるデータ処理, Pythonによるプログラミング利用, AIツールによるプレゼンテーション資料作成や情報整理などの実践により, 情報の処理およびAI技術の利活用について基礎的な知識・技術を修得することを目的とする。									
【到達目標】									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報をコンピュータ上で表現する方法および安全な利用方法について理解する</li> <li>・表計算ソフトを用いたデータの編集・保存・分析する基礎的手法を習得する</li> <li>・プログラミングに関する基本的な概念と文法ならびに論理的思考能力を習得する</li> <li>・AIの基本的な特性および適切な活用方法を習得する</li> <li>・以上を通じて, 学科で掲げる学習・教育目標の中の, A1コミュニケーションおよびプレゼンテーション能力, B1科学的問題解決能力, D1問題発見・解決能力を習得する。</li> </ul>									
【授業計画と内容】									
演習は複数形式で実施し, 1T5を佐藤裕一, 1T6を孫安陽が担当する。									
<p>第1回 ガイダンスと情報セキュリティ</p> <p>第2~6回 表計算ソフトの利用(MS Excel) 表計算ソフトを用いて基礎的なデータ整理・グラフ描画等に関する演習を行う。</p> <p>第7回 表計算ソフト実技テスト</p> <p>第8回 工学系学術情報の基礎として、学術情報の検索、資料の入手、情報の利用について学ぶ。</p> <p>第9~12回 プログラミング実習 (Python) プログラミングに関する基礎的な文法, ライブラリの利用法について演習を通じて習得し, プログラムを用いたデータ処理法を学ぶ。</p> <p>第13~14回 AIツールの利用方法を習得し, AIツールを用いて問題解決の実習を行う。</p> <p>第15回 フィードバック</p>									
第15回の演習時間中に, 全体の学習到達度の確認と, 質疑, 補足説明を行う。									
情報AI基礎演習 [工学部] (建築学科) (2)へ続く									

情報AI基礎演習 [工学部] (建築学科)(2)

**【履修要件】**

Microsoft Office (Word, Excel, PowerPointの三種) がインストールされたノートパソコンの持参を前提とする。

なお、京都大学はMicrosoft社と契約を締結しており、学生はMicrosoft365を個別負担なく利用できる。詳細は「入学案内」を確認すること。

**【成績評価の方法・観点】**

演習時間内でほぼ毎回課題を与えてレポートを提出させる。

その他、中間テスト・小テストを実施する。

成績は演習課題の理解度および情報処理操作の習熟度に基づいて下記の配分で評価する。

課題評価：30% 中間テストおよび小テスト：50% 定常点：20%

**【教科書】**

演習中にpdf資料を適宜配付する。

**【授業外学修（予習・復習）等】**

演習後の復習として、習得した技術・知識を再確認すること。

またそれらを他の講義科目のレポート作成等に活用すること。

**【その他（オフィスアワー等）】**

情報環境機構が提供する情報セキュリティe-Learningを必ず受講し、修了テストを受けた上で、同テストのフィードバックを確認しておくこと。授業内では受講のための時間は設けないので授業時間外に受講しておくこと。同e-Learningは学生も含めた本学の全構成員に対して毎年受講が求められているものである。2回生以上で過去の年度に受講した場合でも今年度まだ受講していないのであれば必ず受講すること。

**【主要授業科目（学部・学科名）】**